

平成24年度八重山群島病害虫発生予報第2号(5月予報)

I 5月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	40	50	20
平年並	40	30	30
低い(少ない)	20	20	50

(平成24年4月20日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	25.7	28.3	23.6	206.6	162.3

(沖縄気象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

II 5月の発生予報および防除上の注意事項

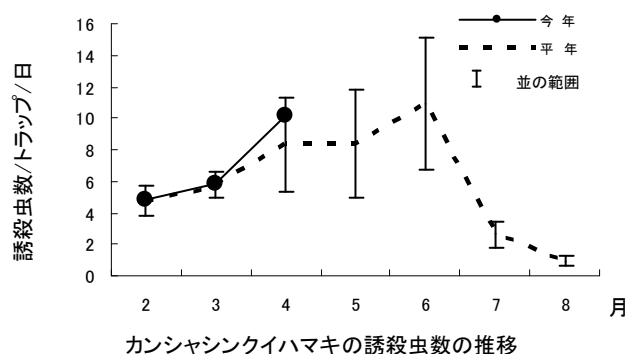
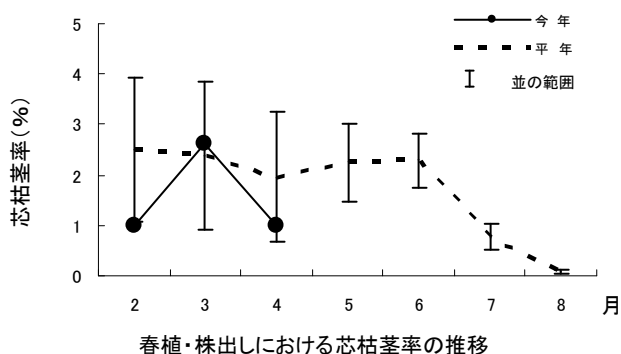
1 さとうきび

(1) メイチュウ類

発生程度 : 並

予報の根拠

- 4月下旬の調査の結果、春植・株出圃場における芯枯茎率は1.0%(前年0.5%、平年2.0%)と平年並であった。
- 4月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は10.2頭(前年6.1頭、平年8.3頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる
- 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号(平成24年4月5日付)参照。

○ サキシマカンシャシクイコメツキ(ハリガネムシ)の防除対策

- 4月の合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たりの誘殺数は0.4頭(前年1.2頭、平年3.1頭)と平年より少なかった。
- 更新圃場は速やかに古株などの残渣を処理し、植え付けまでに数回耕耘して幼虫密度の低減を図る。
- 培土時に他の土壌害虫の防除も兼ねた薬剤を選定し施用する。

2 マンゴー

- 炭疽病の防除対策
 - a 4月中旬の調査の結果、一部園地で発生がみられた。
 - b 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
 - c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
 - d 果実肥大期は、治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

- チャノキイロアザミウマの防除対策
 - a 4月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.1頭未満(前年0.1頭未満、平年5.9頭)と平年よりやや少なかった。
 - b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
 - c 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
 - d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
 - e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

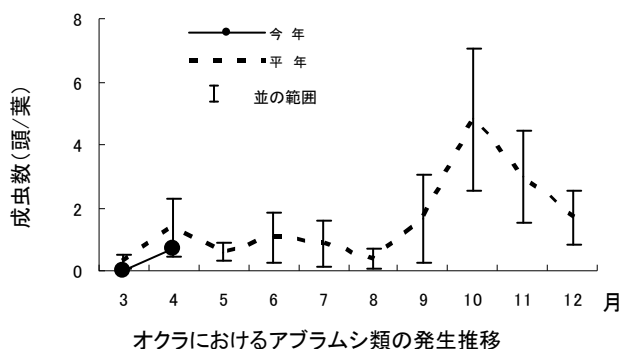
3 オクラ

(1) アブラムシ類

発生程度 : 並

予報の根拠

4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.71頭(前年0.03頭、平年1.38頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- a シルバーポリテープ等を利用して飛来を防止する。
- b 圃場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源となるので除草する。
- c 多発すると葉は萎縮し、初期生育に影響を及ぼすので、早期発見・早期防除に努める。